



2026年4月30日

各 位

会 社 名 アストマックス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 牛嶋 英揚
 (東証スタンダード・コード 7162)
 問合せ先 執行役員 西潟 しのぶ
 電話 03-5447-8400

2026年3月期連結業績速報値と2025年3月期連結業績との差異見込みに関するお知らせ

2026年3月期の連結業績は、2026年5月15日(金)に開示の予定ですが、決算の概要がまとまりましたので、下記のとおり速報値としてお知らせいたします。なお、速報値につきましては、現時点で当社が合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は速報値と異なる可能性があります。

この結果を受け2026年3月期(2025年4月1日～2026年3月31日)と2025年3月期(2024年4月1日～2025年3月31日)の業績に差異が生じる見込みとなりましたのでお知らせいたします。各セグメントの概要説明は、5月15日に開示する2026年3月期決算短信にてお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期連結業績速報値(2025年4月1日～2026年3月31日)

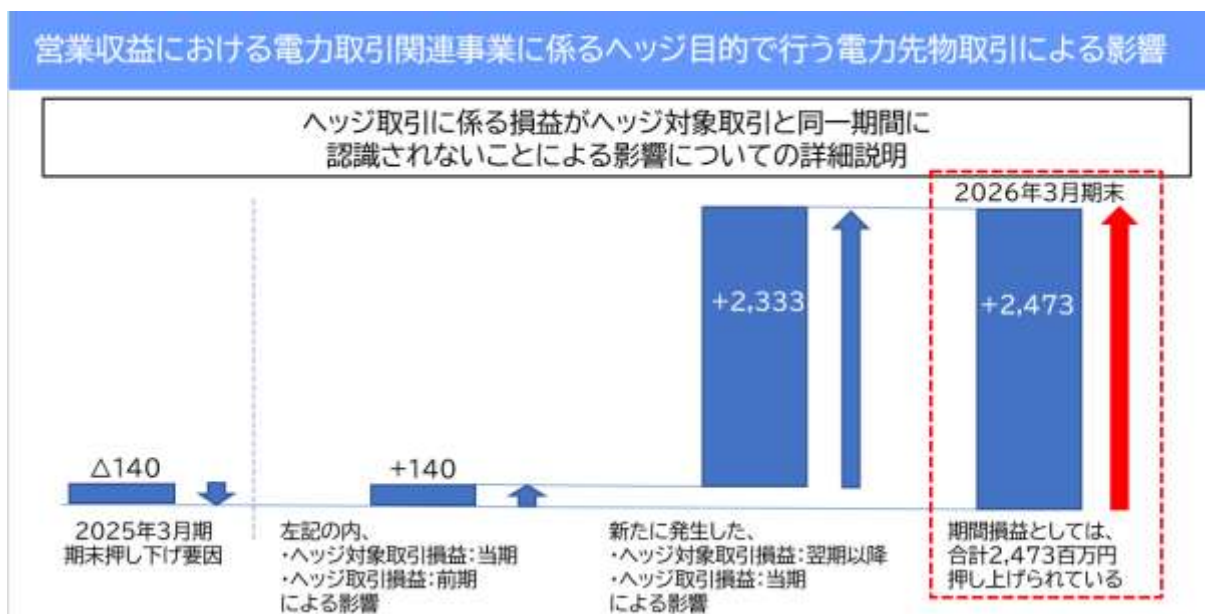
(単位:百万円)	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
2026年3月期 連結業績速報値	25,258	2,635	2,534	1,956
2025年3月期 連結業績(実績)	20,666	△176	△146	△146
増減率(%)	22.2	—	—	—

※ 当連結会計年度の営業収益における電力取引関連事業に係るヘッジ目的で行う電力先物取引による影響は以下のとおりです。

電力取引関連事業においては、電力現物先渡取引の価格変動リスクをヘッジする目的で電力先物取引を利用しております。電力現物先渡取引は受渡が完了した時点で損益を計上する一方、電力先物取引はデリバティブ取引として時価評価を行い損益を計上しているため、電力現物先渡取引に係る損益と電力先物取引に係る損益の計上時期が相違しております。

当連結会計年度における、電力現物先渡取引が当連結会計年度の受渡にもかかわらず前連結会計年度に計上された電力先物取引に係る損益と、電力現物先渡取引が当連結会計年度末を越えて受渡が行われるにもかかわらず当連結会計年度に計上された電力先物取引の損益は差し引き+2,473百万円であり、当連結会計年度の損益を実質的に押し上げる要因となっております。

なお、前連結会計年度(2025年3月期)の電力取引関連事業の営業収益とセグメント利益はそれぞれ合計104百万円押し下げられておりました。



2. 2026年3月期連結業績速報値と2025年3月期連結業績との差異の理由

営業収益は、電力取引関連事業における増収を背景に前年同期間比22.2%増加の増収となりました。

損益面ではディーリング事業における事業撤退に向けた事業規模縮小と裁定取引の取引対象商品の大幅な価格変動等によるネガティブな影響は小さくなかったものの、イラン情勢の緊迫化による原油や天然ガス等の急騰を受け電力価格が急上昇したため、電力取引関連事業のヘッジポジションが大幅な収益計上となり、全体として営業利益、経常利益が拡大し、大きな差異が発生しました。なお、資本効率の向上と財務体質の強化を図るため、非上場有価証券を2025年7月に売却し、投資有価証券売却益として146百万円を特別利益として計上し、一方、2025年10月に電力取引関連事業の取引先が民事再生手続きに移行したことにより売掛債権等38百万円等を貸倒引当金繰入額として特別損失を計上したため、親会社株主に帰属する当期利益は1,956百万円となりました。

以上